

# 静岡県支部会報

第17号

日本大学通信教育部校友会

平成25年10月11日発行

## 市ヶ谷に新校舎

支部長 石川 貞夫

例年に続く猛暑の夏でしたが、8月を過ぎてからはさすがに一息つけるような夜もある夏の終わりでした。支部校友の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、いつも温かいご支援ご協力をいただきまことに有難うございます。

本年度の第42回通信教育部定期総会は5月25日（土）に市ヶ谷駅前の日本大学桜門会館で開催されました。

通信教育部長福田弥夫先生のご挨拶の中で校舎建設について次のような説明がありました。

通信教育部は、市ヶ谷にある大学本部の隣接地に新校舎を建設し一部を来年9月に移転することになります。新校舎は、各教室にテレビカメラを設置し、最新の情報機器を備え、スクーリングのサテライト化に対応すると同時にスムーズなメディア教材の作成が可能となります。通信教育部の培ってきたeラーニング、メディア授業のノウハウなどの教育的資源を、大学全体のものとして活用し、本学の教育力を強化する。このことは通信教育部は、eラーニングを中心とした学修の推進および支援のための機構の中核的存在として、「アクティブラーニング」に関する中心的組織、さらに総合大学としてのメリットを生かすための「日本大学バーチャル・ワン・キャンパス」の実現に向けての中心的組織として変化して行くことを意味していると考えています。（以上要旨）

白戸校友会長からは、当校友会事務局も市ヶ谷の日本大学会館内に移転すると発表がありました。また、役員を選出基準、役員会費の改定の議案

が提案可決され、また日本大学校友会正会員制度と加入について協力方説明がありました。

さて次に、浜岡原発を抱える静岡県民の立場から原発問題に触れたいと思います。

9月8日早朝、プエノスアイレスで開かれたI O C委員会で2020年夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定しました。国中歓声を上げた途端、中国は早速、我が国の領空に爆撃機を飛ばしましたが。

I O C委員会では委員から福島原発の冷却水漏れについての質問があり安倍首相が回答しました。

一方、平成11年3月11日から2年半を経過しても復興は遅々たる感じで、特に福島における原発問題は実質的には、厳しさが増している面があるとの論もあるようです。

冷却水は増える、溜まる、保管場所と受け入れ可能量には限りがある、保管技術や処理方法、漏水の行き先、リスク管理が追いつかない。被災地全体では、汚染処理が進まず除染廃棄物は仮置き場に溢れ新たな置場所が見つからない。避難者は疲れ、次第に散らばり、把握が難しくなっていく。安住の場所は何処ぞ、という現状です。負の状態に限りがありません。

広島・長崎では、原爆投下から68年経っていても、いまだに毎年、原爆症の発症者・患者認定される人がおり、犠牲者の名が慰霊碑に納められていきます。

原発は廃炉にしても40年間は、その場にそのまま、手をつけられないということです。

わが国の原発は、ほとんど海辺という条件の土地にあります。地震・テロ・事故等で取り返しのつかない悲惨な状態を招くことにならないよう、当面は安全対策を第一とし、原子力によらないで環境を守ることのできる各種天然資源の利用、

開発導入と発電施設の建設を一日も早く実現し、原発の最終処理を過ちなく完全実施し、国民が真に安心して暮らせる国になるよう政府が国家の総力を挙げて取り組むことを願うわけです。これにより生まれた技術は世界の幸せにも繋がります。

なお、今年7月に牧の原市が行った浜岡原発(現在すべて停止中)への市民意識調査ではA.「停止しておいたほうがよい」51.3%(前年比6.1%減)、B.「安全が確認できれば稼働したほうがよい」23.3%(同比4.8%増)ですが、うち16~19歳の層はA54.8%、B12.9%で、いずれも全体平均より停止を望む意識が高いという結果でした。

(経 S37)

## 通信教育部校友会 第42回定期総会報告

平成25年度の総会は、去る5月25日(土)に日本大学桜門会館において開催され、全国から集まった多数の校友と通信教育部長福田弥夫先生ほか多くのご来賓のご出席をいただき盛大に行なわれました。当支部からは、石川貞夫支部長と坂田弘明幹事が出席しました。

今年は総会において、当支部から石川貞夫支部長・後藤正治・小松征夫両副支部長の3名が表彰されました。杉山秀夫副支部長は先年すでに表彰されておられますが、平成9年10月、杉山支部長と猿渡通信教育部校友会会長(いづれも当時)のご指導を受け上記の3名が加わり改編された組織がスタートし、さらに田中由雄幹事長が加わり今日に及んでいる次第です。会員の皆様のお蔭によるものと心から感謝申し上げます。諸事、変化が激しく対応も厳しいときですが、幹事の方々と会員の皆様と力を合わせて運営に努力していきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

## 平成24年度静岡県支部総会報告

平成24年10月13日(土)午後3時30分

から三島市の日本大学国際関係学部15号館において支部会員15名、校友会本部から肱岡堅一・山本良吉両副会長と山田正義岐阜県支部長、愛知県松田隆氏の4名の来賓をお迎えし計19名で開催しました。

後藤正治副支部長の司会進行により、物故会員への黙祷・来賓紹介に始まり、報告事項・議事は滞りなく承認可決されました。終了後、藤田茂東海ブロック長・愛知県支部長、大形弘三重県支部長と同県の間宮けい子氏の3名が加わり、次の講演会に入りました。

講師は国際関係学部助教安藤貴世先生で、「日本の領土問題—竹島問題と尖閣諸島問題を比較して」の演題でした。本学就任前は外務省に勤務された先生の講演内容は、たいへん興味深く説得力があり、この問題は基本的には性格が異なっているけれども、日本政府も国民も、領土というものについてもっと理解し、自国の領土を守ることに慎重かつ毅然として対処しなければならない重大な問題であることを痛く感じました。

講演後、引き続いて東海ブロック総会と懇親会が行われました。

## 平成24年度東海ブロック総会報告

標記の第15回総会は24年10月13日(土)に静岡県の担当により、前記、静岡県支部総会に引き続いて行われました。出席者は支部総会と同じでブロック会員20名、本部からの来賓2名、計22名でした。また藤田茂ブロック長の代読で福田弥夫通信教育部長のご挨拶を頂きました。

山本副会長から組織強化について、熱心な説明がありました。

開催担当順について、大形三重県支部長からの申し出で、次年度25年度は伊勢神宮遷宮のため自県で担当したいと提案があり、25年が順番の愛知県と交替になりました。

記念撮影の後は、講師安藤貴世先生との会話や大形支部長の手品などで、瞬く間に時間が過ぎた懇親会でした。

## 平成25年度の支部役員会

### ◎第1回幹事会

6月1日(土)午後5時から静岡市南町庄やにおいて下記内容で開催。出席者8名で、協議事項は ①5月25日(土)の校友会第42回定期総会報告と被表彰者3名の表彰状・記念品の伝達 ②24年度事業報告 ③25年度事業計画 ④支部会報第17号発行について ⑤総会開催日は10月12日(土)で西部(浜松)とする。という内容です。

### ◎第2回幹事会

8月3日(土)前回と同じ場所・時間で開催、出席者7名。協議事項は ①24年度収支報告 ②支部総会について ③東海ブロック総会出席者の確認(5名) ④支部会報第17号発行について。という内容です。

### 会費納入のお願い

静岡県支部会費は年額1,000円です。

この会報をお受け取り次第、お忘れの無いよう同封の郵便振替用紙を用いて振込んで下さい。

予算は大切に使用させて頂いており、支出にあたっては、諸事最低限度での使用を心掛けております。ご理解とご協力を切にお願いいたします。

ご寄付は多少にかかわらず歓迎いたします。

〈振込先〉

振替口座 00880-7-35164

日本大学通信教育部校友会 静岡県支部

## 人間の能力

繁田雅希

この頃は楽をしようという風潮が強く、真面目に勉強することは、どちらかというところあまりいい意味でとられないことも多いですが、人間の脳には、コンピュータよりもはるかに多くの細胞があると云われています。

通信教育を受けている、あるいは受けた方々は少なくとも真面目に勉学に取り組んでいる方々だと思います。

勉強するのはどの年齢であっても遅くはないと思います。私も英語の教員を長くやってきましたが、人によっては勉強というものは面白くもないし、つまらないことかもしれません。しかし、何か一つのことを学んでそれをきっかけに何か解かりだした時、勉強をやっているよかったですという場合が多いです。人生死ぬまで勉強だと云われています。一つのことだけではなく色々挑戦してみることも人生を実り多きものにします。

先日、実話を映画にした「奇跡のりんご」を見ました。農薬を使わないりんご栽培を目指した主人公が努力を重ねるのですが失敗してしまい、貧乏のどん底に陥り自殺まで考えます。しかし、最後にヒントを得て、また家族の励ましもあり、それをきっかけに立ち直ります。ときには常識外れで無理ともいえる考えや努力・成功に対し「人間の能力」について、考えさせられ激励されます。

平凡になりますが、なにごとにも挫けずに目標に向かって勉強して真面目に頑張っていけば必ず良いことがあります。人間として生きる能力が増え身についていく気がします。

(幹事 文理 H8)

### 編集後記

景気に、やや明るさが感じられる昨今です。一日一日を大切に、できるだけ元気でへこたれず明るく生きていきたいと思っております。随筆・紀行文・和歌・俳句など、皆様のご寄稿を心からお待ちしております。

発行人 石川貞夫 電話 055-975-5977  
事務局 田中由雄 電話 055-087-7880  
渡辺孝哉

日本大学通信教育部校友会静岡県支部  
〒411-0044 三島市徳倉2-29-9  
田中由雄 方

平成24年度 通信教育部校友会静岡県支部収支決算書

自 平成24年4月 1日

至 平成25年3月31日

収入の部

| 科 目    | 金 額     | 摘 要                   |
|--------|---------|-----------------------|
|        | 円       |                       |
| 前年度繰越金 | 248,054 |                       |
| 会費収入   | 75,000  | 75名分                  |
| 総会収入   | 76,000  | @4,000×19名            |
| 寄付金収入  | 0       |                       |
| 雑収入    | 150,585 | 会報発送代本部からの補助(81,200円) |
| 前受金収入  | 11,000  | 7名分                   |
| 合計     | 560,639 |                       |

支出の部

| 科 目    | 金 額     | 摘 要                       |
|--------|---------|---------------------------|
|        | 円       |                           |
| 消耗品費   | 58,547  | 封筒・ゴム印・文具・印刷代             |
| 通信運搬費  | 126,120 | 幹事会・総会案内郵送料(本部発送代81,200円) |
| 会合費    | 53,200  | 総会時懇親会                    |
| 手数料・報酬 | 40,000  | 総会時講演料・会場使用料・事務処理費        |
| 雑費     | 64,977  | 通信役員年会費・総会関係補助            |
| 次年度繰越金 | 217,795 | 普通預金・郵便振替口座にて保持           |
| 合計     | 560,639 |                           |

平成24年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、  
記帳その他正確であることを認めます。

平成25年4月30日

会計監査 山口 良児 ⑩

土屋 忠得 ⑩